

第4回 中川流域水循環系再生計画策定委員会

議 事 録

日時 平成19年12月20日（木）9：00～

場所 役場本庁舎3階会議室

事務局 おはようございます。本日は大変ご多忙のところ、当委員会にご出席していただきありがとうございます。若干定刻を過ぎましたが、ただいまより第4回中川流域水循環系再生計画策定委員会を開催したいと思います。なお本日、山倉委員、堀越委員、安田委員、小早稲委員、小坂公江委員につきましては御都合により欠席との連絡を受けております。なお、本日は中川流域に係る基本設計を行っていただいております三井共同建設コンサルタントさんにご同席いただいております。初めに委員長よりご挨拶を頂戴いたします。よろしくお願いいたします。

委員長 おはようございます。早朝からお集まりいただきましてありがとうございます。本日は第4回ということで、前回に現場を見ましたけれども、調整池を主体にしてやっていきたいと思います。先程ご紹介しました三井共同建設コンサルタントさんに来ていただいたのは、今日色々な提案をしていただきますので全て聞いていただいて、何かあればお力添えいただきたいと考えております。私のほうからお願いいたしましたので、その天はご了承いただきたいと思います。議事録の確認につきましては持ち帰っていただき、見ていただき、表現や趣旨が違うところがあれば訂正していただきたいと思います。

事務局 校正が終わりましたらまた、町のホームページに掲載したいと思います。

委員長 では、早速ですが鈴木委員さんから先程配布されました資料についてご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

鈴木委員 この前の委員会でもそうでしたが、調整池だけで治水対策をやろうとしているように思えます。二通りの案があっていい。ひとつは調整池ともうひとつはこの前視察に行った京成のところの拡幅。拡幅の問題はどう扱われているんですか。

委員長 ご質問は治水対策には調整池や中川の改修、浸透系の整備といった全体にかかわる検討が必要だということですね。

鈴木委員 そうです。

委員長 はい、分かりました。これは根本的に変わりはありませんので。事務局そうですね。

事務局 はい、変わりません。

鈴木委員 とにかく予算がないということで、多目的調整池というものを町は進めているわけですね。京成の下を広げた場合どれくらいかかるか文書で示して欲しいんです。それで委員会にかけて方向付けを示してもらいたいと思う。

委員長 立場上のいろいろな問題点がありますので、A案、B案、C案いろいろあると思います。これをやった場合。全部出来ない場合もあるし、いかに経費を節約して中川の治水対策を図るか、これは大前提です。試算をそれぞれのポイントの中でそれぞれがどのくらいかかるかというのは当然やっているはずです。

鈴木委員 京成の拡幅の件で京成と交渉したのか。交渉した結果、こういう予算ですよと。こういう

資料がぜんぜん出てこないです。どうなんですかその辺。

事務局 第1回目の委員会の時にうちのほうから全体的な事業費とどこを進めていけば一番効果的な治水対策が出来るかという説明はしたつもりでございます。

委員長 要するに、まず最初に全部試案を検討して、どこを重点的にやればいいのかというのが出てきます。そのための協力をどのように仰げばいいかという点もまだ残っているわけです。それに京成沿線の問題もある。全部をスタートラインに乗せた段階で離すものは離し、能率的なものを重点化する。当然ですよ。ストーリーとして。物語として、Aの物語もある。Bの物語もある。Cの物語もある。Dの物語もある。全部のオールトータルの物語のアウトラインを見て評価して、重点化すべきものがどこにあってどういう効果があるのか、そこまで理解するためには共通の概念を持たなければならない訳です。ここにある調整池の絵に住民の意見を生かしていくのが重要な要素なんです。治水対策以上の効果があるかもしれない。単なる調整池ではなく多目的化することによって町のシンボルになるかもしれないし、酒々井という駅のそばで表玄関ですから治水対策の新しいモデルになるかもしれない今日は課題を調整池に絞って重点的にやっという訳なんです。

鈴木委員 5万トンの調整池を作って、この前の平成16年並の洪水が来た場合、これで解消されるんですか。

委員長 その確約は、ここでもって拾ったって無理なんです。ここの中でやることでどれだけのものの形が出来てくるのか。それによって変わってきます。当然これだけのことで済むかというとならないです。すると当然ここに浸透の問題も出てくるし、周辺部の河川の問題もあります。湧水の問題もあります。そういうことも含めて考えていかなければならないんです。当然京成の中川の問題も出てくる。京成との関係も考えなければならぬ。こういうことを含め全体的に考えていく。この間見たのは京成のそういう形のもので、これは交渉する必要はあると。すぐに取りかかれるかどうかは状況如何ですから。ですから今日は集中的に調整池についてやりましょうという課題を前もってお願いしたわけです。ですから今日は調整池についてやらせていただきたいというのが私の意見です。ひとつよろしくお願ひいたします。

鈴木委員 愚痴を言わせてもらいましたが、私ばかりしゃべって、他の委員さんも何か気がついたことあったらしゃべってくださいよ。

委員長 いえいえ、一人ひとりの意見は大切なことで、問題解決のための重要な要素ですから取り上げさせていただいたんです。はい、どうぞ。

安藤委員 私のように水害から一番近いところに住んでいるものが一番要望するのは早い解決なんです。当初の話ですと調整池の話を聞いてますと、かなり時間がかかりそうだと。それでしたら京成の拡幅のほうがお金はともかくとして短時間で出来るんじゃないかと。調整池が余り時間がかからないようでしたら、越水、内水、逆流を考えると調節池が一番望ましいと思います。ただしそれがいつになるのかははっきりしないということになれば、京成の拡幅を優先すべきと思います。

委員長 わかりました。おそらく私が住んでも同じ考えだと思いますね。基本的に我々の任期中の3月31日までにある程度の方角を出さなければならない。事務局に確認しますが、3月31日までにある程度の方角を出さなければならないんですよ。

事務局 基本的にはそうです。

委員長 そういう意味であらゆるものを叩いておきたい。でなければ年末のこの12月20日に開きたくないわけですから。

鈴木委員 京成ガード下の費用の件ですけど、せっかくこの委員会に取り上げられたのですから、このぐらいかかりますよという資料の提出をお願いしたい。

事務局 1回目のときにご説明はしてあると思うんですよ。

鈴木委員 出てきてないから私今質問しているんですよ。

事務局 いえ、当時の議事録今見ているんですけど、お話はしてございますね。

委員長 それは、集中的に1箇所をやるときの予算ですよ。その後皆さんが現場を見たときに枝道を作ったらどうかという話も出てきているわけですよ。枝道を考えた場合にはどのような形になるのか、そのところも含めて面倒見てくれませんか。それは大事だと思います。

鈴木委員 3月末日までの任期ですが、いつごろまでに会の中で提出できますか。

委員長 ですから各対策に対して意見調整したものがいつごろ出るのかということなんですが。

事務局 基本的に今日、調整池の多目的利用ということで、各委員さん方にお集まりをいただいて、治水だけではなく将来の調整池の姿について今日お願いするというので、次に中川の流域の中でも非常に大きな役割を示す貯留浸透施設について、次回は皆さんにお集まりいただいて、どういうところを利用して作った場合に水の循環がこういう風が変わって今流れている中川を含め、印旛沼を含めどのようにきれいになるか、というようなことを次回にお願いしたいと思っております。それが終われば大体、河道についても1回目にお話しましたし、調整池につきましても済みましたし、メニュー的には終わってその中でも足りないものがあれば、またその後詰めていただくというスケジュールになろうかと思います。

委員長 それでは、議事を進めさせていただきます。貴重なご意見どうもありがとうございました。では鈴木さん進めていきますのでまた何かありましたら遠慮なくおっしゃってください。

勝股委員 京成のガードの下の予算は確か11億とかではないですか。

事務局 11億というのは51号から上流の町施工分が11億ですというお話をしたと思います。

勝股委員 嵩上げはその予算からは外れているんですか。

事務局 あれは緊急対策工ということでスタートしておりますので、2千万弱の予算です。

鈴木委員 嵩上げ工は別途と考えればよろしいんですか。

委員長 緊急対策費ですから我々はそこに関与してないわけです。

勝股委員 そうすると京成をやろうとすれば、おおよそ皆さんに確認しておいたほうが良いと思うんで、おおよそどのくらいかかるか、目安で。

事務局 京成やるにはまず前提条件としまして、京成の下流の河道が未整備であります。京成を触るということは、当然下流に影響しますので最下流からやり直さなくては、途中で今度パンクしてしまいますよ。ということになりますので。

勝股委員 なんだか難しいですね。そうしたら汲み上げればいいんですか。

事務局 宗吾機場のポンプというのは、当時干拓をして農業用のポンプということですので、これが治水ポンプに替わるかといいますとそこまでの能力は持っておりません。治水と今の宗吾機場のポンプは別に考えていただきたいと思います。

勝股委員 そうすると、最下流までやると11億ということですか。

事務局 いや、11億は上流です。超概算の話ですけども、最下流から京成の軌道まで中川の改修をやると、大分内側に見ている数字ですけども16億程度かかると思います。

鈴木委員 宗吾機場の役割は、農業用水は4ヶ月しか使わないんですよ。後は都市下水路のための排

水の汲み上げとして稼動しているんです。この前壊れましたが、一基は修理終って、後の2基は近じか完成するという報告を受けていて、農業用水ではないですよ。公共雨水のためにほとんど使われていて、その修理費も町が負担しているんです。各自治体が、佐倉市、成田市、印旛村、広域で。ガードを拡幅すれば1時間で流れてしまう。5万トンの水量が。大きなポンプを使えばすぐに払える。6月4日に視察に行ったときは、田植えをやってあまり低く水位を下げるといざ洪水となると、平賀機場も酒々井機場も止めて横の連絡をとって汲み上げを始めるんです。もっと水位下がるんです。

委員長 水位下がりますけれども、沼の水位自体が上がってきたら逆流はしますよ。

鈴木委員 いや、しません。ポンプが動いているから。

委員長 動いているけれども中川やその他の排水がありますよ。

鈴木委員 それだけの能力あるんですよ。私がいっているのは能力があるから拡幅してくださいと。京成の下流で洪水が起きるといのはまず考えられない。これだけの能力があるんだから。

委員長 それはあくまで仮定の話です。

鈴木委員 そうなるとみんな仮定ですよ。調整池も100パーセント洪水対策出来ますか。

委員長 いいですよ。鈴木さん言うポンプの稼動も大事。拡幅も大事。すべて検討しましょうよというのが始まりですから。浸透もそう。あらゆるものを全部検討しましょうと。だからいいんじゃないんですか。

安藤委員 鈴木さんの今の話ですけれども、前回の話と少し違うんじゃないですか。前回は水が下からも来るということと言われてました。

鈴木委員 それはポンプが止まってしまったんですよ。

安藤委員 下流の水田に300メートル四方の貯水池が出来るとですよ。だから雨量がどんなに増えてもありません。この前、上と下からといわれましたが今日は下が大事だという話。

鈴木委員 上というのは老朽化したスクリーンと、ポンプがおかしくなっていて、ポンプが稼動できなくなってしまったので多分水位が上がったと思うんです。今は直ったんですよ。

安藤委員 昔の沼の時は今の県道宗吾酒々井線まで水が来ましたが、今はあれだけの広大な面積の遊水地があるわけですから、下から水が来るというのは、考えなくていいんじゃないですか。

鈴木委員 考える必要はあると思います。

委員長 洪水は色々な状況で変わってきますから、そのところを考えると我々が最初にこの委員会を作ったときに、先程の3つのポイントで考えましょうと。それから色々な問題点が出てきますから、総合的に見ていきましょう。そういう形にしないと、一つ一つやったら全体の姿が見えてきません。例えば浸透系もやらなくてはいけないわけですから、ひとつよろしくお願いします。

勝股委員 本題に戻って、調整池の図面を作る予算はおおよそどのくらいかかって、どこが出すんですか。これが一番問題になると思うんです。

委員長 図面がもう出来てたわけですよ。出来てたものを、我々がプランニングとして色々な形を提案するわけです。これ、予算措置は終わっているんでしょ。

事務局 これは終わってます。

勝股委員 なぜかという、こういうようなきれいな施設を作れば、みんな人がそこに集まり、車が当然一家に1台や2台ありますから、近くの方は歩いていって見ることが出来ますが、遠くから来る人のために駐車場も必要になるでしょうし、全然予算が変わってくるわけです。その辺がどうなるのか。今、町の中で踏み切り渡って右に曲がるころなど、車を通すなど中央台の色々な人から言われ

ているんですよ。かといって道路なので通さざるを得ない。一方通行にするか、それとも幅員の広い道路で消防署の方に抜けたらどうかとかそういう話になってしまうんですよ。ですから予算がいくらかかって、国土交通省のほうから出せるのか、町だけでやろうとしても出来ないの。

事務局 中川の流域防災事業につきましても、国のほうから補助金を4割もらっている交付金事業でございます。今回、皆様方をお願いしてある多目的利用についても、勝股委員さんが言われたとおり町の単独予算ではとても出来ません。色々国の補助金を使った中で今後、皆さんからいただいた提案をまとめた形で整備を進めていきたいと考えております。

勝股委員 その辺が分かれば、中央台1丁目は交通事故が多くて、私の家の前で6年か7年の間に4件も起きているんです。皆さんからなんで声を出して言わないのと言われていたんです。

委員長 やはり住んでいて、こういう不便がありこういうことがある。次の世代に残せるものを調整池にしても、中川の拡幅にしても浸透にしても作っていかねばならないんです。そのための委員会ですから。

勝股委員 私はその辺をよくわきまえた上で話し合いをしないと、そういう意味でこの委員会で聞こうかなと思っていました。やはり町の中を大型トラックが毎日、朝通っていくわけですから見ていて歯がゆいんです。いずれにしても町の予算の持ち出しをいかに少なくするかが重要です。この町の財政事情を考えた場合に。

委員長 どこも同じですよ。私が住んでるところも同じです。けれどもそこに住んでる人間が自分たちの出来ることをどこまでやるかということと、あと出来ないことをどうやってお願いするかなんです。今日は調整池ですが、この調整池についてどれだけの機能を、また、プラスアルファをどう求めていくかというところに焦点絞りたいと思いますので、時間も大分経ってますので議事に入らせていただいてよろしいですか。

鈴木委員 ひとつよろしいですか。今の予算の件で南部開発も然り、多額の町予算が使われるんですが、町民にこういう計画をやるんだということを明らかにして、Q&Aみたいにしておいたほうがいいんじゃないですか。

委員長 広報か何かで出してるんでしょ。

事務局 それは出しています。

鈴木委員 これぐらいの規模でこの額でというのは出してないです。それを出して欲しいんですよ。納得しない町民がたくさんいるんです。

委員長 わかりました。また相談しましょう。何しろ今日の本題入りましょうよ。じゃ、入らせていただきます。もう1回おさらいをしたいんですが、前に1度お聞きになっていると思いますが、事務局をお願いしたいんですがマスタープランの概略を説明していただけますか。

事務局 治水対策といたしまして大元になっておりますのがまず、どれぐらいの規模の雨が降った場合にそれを押さえようかというところから始まっています。5年に1回の大雨に耐えられるような治水対策、最終形といたしまして10年に1回となります。その降った雨を各施設に分散させる流量分担計画を立ててございます。5年に1回の雨、45.6mmという時間最大が降った時に中川に集まってくる水が43tございますので、それを河道や調整池に分担させる河道分担、あるいは流域分担と申しまして、一般家屋の宅内浸透、公共施設であります公園等を利用いたしまして貯留浸透を行うことで、中川が溢れないようにするマスタープランでございます。そこから導き出された調整池容量が5万tでございます。

委員長 そのために今図面にありますこれだけの広さと、深さが必要だということです。後事務局にお聞きしたいのは、周回の公道との関係、真ん中に橋が渡っている形。どういうことでこのような池の形になったのか。もう1つ大事なのはこの池の中に流入して来る河川の位置はこれでいいのか。

事務局 では大きな図面を貼り出させていただきます。まず、調整池の形がなぜこういう形になったかですが、町の計画の中に道路網計画がありまして、皆さん知っている方も多いと思うんですが、駅から来てイゲタサイクルのところで道路が途切れているんですね。この道路が将来どっちに向うのが重要な要素になってまいります。まっすぐ行って山のところでT字型になっている道路網があるもんですから、まずこの道路に調整池をかぶらせないものとなっております。方やこちらは住宅団地で家屋が密集しておりますので、地形を変えた場合にその影響は避けたい。さらに先程の流量計算の5万tから池の形が決まってきたものです。

鈴木委員 どのくらい掘るんですか。

事務局 田面からマイナス2m2、30cmです。この絵は治水上の絵ですので、これにプラスして多目的利用ということでお願いしているわけです。現行の中川がほぼ中央に位置しております。出口が決まっているものですから。固定点が何点かある中で、そういった要素を考慮いたしましてこういった形になってございます。

青木委員 5万t溜めるその水は主にどこから流れてくるんですか。

事務局 東酒々井とふじき野となります。

青木委員 中央台からの水が最も多いと思うんですが。

事務局 中川の流域の面積というのが3.6平方キロメートルあります。そのうち東酒々井とふじき野と夏に皆様と歩いて湧水等を確認した谷津田の方からの水がそっくり来ます。

青木委員 その湧水のほうは結構来るんですか。

事務局 水が出て来るというのは、土地の利用によって流出係数というものがございまして、市街化されたところから出てくる水の量とこういう田園風景の所から出てくる水の量が計算上違いまして、双方の水の量は確かに違います。

勝股委員 住宅街のほうは浸透しないからそのまま流れてしまいますよね。

青木委員 30年位前に子供が流されましたよね。普段はそれほど流れてないのが集中豪雨で一変するんですよ。それが一番怖いですね。私も中川地区でドブ板を要請したんですけど、同じ状況なんですよ。

委員長 だから一旦地下に浸透したものだったらゆっくり出てきますけど、鉄砲水は家庭の雑排水も含めて全部一気に流れ出しますからね。これはもうすごい量です。

青木委員 道路なんか川になりますからね。

事務局 昔の住宅団地がなかった時期、昔の時はおそらく今のような水の出方はなかったと思うんです。

青木委員 いやありました。その当時は住宅地はありませんでしたが。京成の下が狭いんで水田に溢れてました。

事務局 上流域のほうでは同じ雨の量が降っても、水の出方は違うはずなんです。今は降った雨が走って出てしまう。昔は田んぼとかを經由しながら、浸透するものもあるし出方は大分違うと思うんです。

勝股委員 霞ヶ関の方では道路の歩道は浸透性のものにしたんです。経費がかかりますが、そういう

道路を作ればずいぶん違います。

委員長 道路も全て浸透性のものにしなければいけないんです。そして周回に漏斗を設置しなければいけない。それは何かというと植栽なんです。要するにそういうものを含めて全体的にこの調整池はただ水を溜めるだけではないよと。全てのものを調整する形で持って行きたいということで、皆さんの英知を提供していただきたい。田んぼが調整池になってくれればいいんですが、昔のような湿田ではないので、乾田で固まってしまっていますから、水の浸透力は下がっています。

勝股委員 本来なら浸透する田んぼだったんです、昔は。

委員長 今は機械を入れてますから、機械を入れるためには乾田にしなければいけませんから、乾いてますから入る水の量が決まっています。だから今度嵩が上がってくるわけです。いろんな問題があるんです。色々考えていただいたものを発表していただきたいと思います。文字でも絵でも何でもいいですから書き上げて説明していただく形にしましょうか。大きな図面のほうにもう一回書き入れていただけますか。何でもいいから入れてください。それが大事です。(しばし書き込み)

ちょっと書きながらお聞きいただきたいんですが、実は今日お見えになってませんが、小坂委員からこのような思いが寄せられていますので、お聞きになりながらお書きになってください。

『酒々井の魅力は自然が多いということだと思います。電車から降りると酒々井の空気のおいさを感じてほっとします。山の新鮮な空気のおいさです。成田や佐倉では感じません。特に春や秋などは新緑や枯葉の匂いを感じます。今回の計画では雨水用溜池を作るだけではなく、町住人の健康も併せて考え、運動や散策が出来るようにも計画しておいて欲しいと思います。最近、健康のためにウォーキングをしている人が増えています。自然の中を安全に散歩できる楽しい場所が欲しいと思います。老人になっても一人で動けるということはとても大切なことです。現在計画している場所だけでなく、将来は町長のお宅のまわりの方までと考えて計画すれば結構広い散策コースができると思います。

(池の真ん中に橋はなくても良いと思います。それを作るなら散策路を充実して欲しいと思います。)当然、不安、危険の無いように多くの照明装置と、何箇所かのトイレが必要です。もちろん、サイクリングロードも必要です。線路や駅の近くでもあり、酒々井に住みたくなるように自然の中の酒々井をアピールできる環境を作って欲しいです。池の水も一年中溜まっているという状態ではないと思います。池の廻りは桜やハーブをたくさん植えて電車から見えるようにしたら良いと思います。東酒々井の商店街の通りに続いてハーブの店や野菜店、休憩用喫茶なども増えたらよいと思います。将来のため、店舗、建物敷地まで計画に入れて都市計画、道路計画もしておいたほうが良いと思います。(佐倉市のチューリップ園は広くて美しく、一度は行ってみたいと思うが、駅からは遠く埃がすごくて、店もないので何度も行こうとは思わない。)土地の確保の問題もあるので、どのような形にするか具体的には書き込めません。』というメッセージをいただいております。

よろしゅうございますか。いろいろなご意見が絵になったと思いますので、富永さんから説明していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

富永委員 皆さんにお配りいたしました。池の構造自体は私は素人なんで判断できないんですが、ただ、橋は要らないんじゃないかなと思います。水害対策ばかり強調しますと、大多数の町民はなぜこんなところにお金使うんだという意見が出てくるとお思いますので、調節池が本来の目的なんですけれども、それと同じくらいみんなが憩えるような町の名所になるような大きな公園を作ったんだよというぐらいの気持ちで考えたほうがいいんじゃないかなと思ひながら書きました。それから細かいことですが、葦や雑草の生い茂ったものでなく住民が憩えるような、なおかつ視察に来られるような

立派なものを考えてもらいたい。子供たちが水遊びできるようなものも考慮していただきたい。2番目に施工はどうかと思いますが、運営に置いては住民が関わること。私を含め、これから住民の年齢も上がってきて暇になる方がいらっしやる。また、様々な経験をしている方がいらっしやると思うのでそういう方々の知恵を借りてコスト削減という意味もありますが、町民参加で運営して行こうと。3番目に町、コンサルタント、施工業者ともコスト削減に努めてもらいたい。予算の中では用地買収費が一番多いのではないかと思います。これは小坂町長のおひざ元ですからぜひ指導力を発揮していただきたいと思います。細かいことになりますが、複合施設ということで、管理棟を設け事務所、集会場、屋上では野鳥の観察上など、また、農業体験ゾーンを設けさせていただきましたが、そこでは田、畑での農作物育成体験場や漬物の漬け方をはじめ、特産野菜の育て方の講習、池の周辺では草花の栽培等を行えるように考えました。また、湧水もございますので子供たちが水浴びができるようなものを考慮していただきたい。以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。富永さんに質問等ございませんか。私からの質問で申し訳ありませんが、調整池に入ってくる動線ですが管理棟のあるあたりがちょうど広場になったり、駐車場になったりするわけですか。

富永委員 ざっと考えて約4000㎡くらいだと思うんですが、駐車場をとりますとなくなってしまうと思います。農業体験ゾーンを主体にして、駐車場は別のものと考えています。

委員長 湧水がありますが、この湧水を保全するには図の右側の涵養域を大事にしなければなりません。管理等との兼ね合いはどう考えられておられますか。

富永委員 湧水自体は土地買収も考えて保存する価値が十分ある。

委員長 次は先程出ましたが小坂さんのご提案をもう一度。

事務局 先程委員長に原稿を読んでもいただきましたが、その中からピックアップいたしました。まず散策路を設け、運動や散策ができるようにして欲しい。2番目に不安、危険のないように照明やトイレを充実して欲しい。3番目にサイクリングロード。4番目に池の回りに桜やハーブをたくさん植えて欲しい。5番目はハーブの店や野菜店を、休憩用の喫茶店なんかも良いのではないかと。要約いたしますと以上のような内容です。

勝股委員 照明は私はいらないと思います。なぜかというとな夜あると必ず事故がおきます。ほんの少しという程度にしないと夜は必ず事故になります。ハーブもたくさん植えると夜盗まれる可能性が非常にあります。休憩場、トイレ、喫茶は絶対必要だと思います。本佐倉城跡のところを参考にすればいいと思います。駐車場は2箇所ぐらいあったほうがいいと思います。私、国土交通省で予算もやっておりますので、話を通してできるだけ経費を抑えて欲しいと思います。

安藤委員 私は遊水池そのものよりも昔の中川というものは、子供の遊び場はかなりあったんですよ。それがなくなったので、せめて釣りができたりとか子供の遊べる場所を再現したらいいと思います。

委員長 ご意見では昔の土水路的な部分を創出すると。

小坂(良)委員 この50年間で魚とか鳥とかいなくなっている。今、生物多様性なんていわれていますが、そういうものがいなくなり、自分たちの住む環境も悪くなっているのではないかと思います。この地区は42年くらい前に土地改良やりました。この辺の排水路も掘った経験があるんですが、ヘドロ層がとて深いです。そこを砂地にすれば浄化するのにいいし、湧き水も多いのでシジミなんかも住むことができます。あとメダカ。メダカなんていないです今は。タナゴなんかもいないし。赤いきれいな魚がいっぱいたんですよ。今はいません。

委員長 カラス貝はどうでした。

小坂(良)委員 沼行けばいましたが、ここにはいなかったです。あとは廻りを桜にしたらいいと思います。東金に八鶴湖がありますが、あんなふうになればいいなと思います。それについては駐車場や広場も必要だと思います。あと私は農家で、土地改良40年以上前にやったんですけど、農道とか排水路は自分たちの持っている農地から供出したものなんです。減反になっているわけで、そういう現状でありますので、それに田んぼともなりますと農家にとりましては、畑とはちょっと違って先祖代々引き継いできたものですので、買収に当たりましては暖かい気持ち、思いやりのある対応をお願いします。以上です。

委員長 よく判りました。思いやりある対応ということです。次、福田さんをお願いします。

福田委員 たまたま私、ここに住んでおまして。道路ありきの調整池といったようになると思うんですが、この道路ができてくれるといいんですが3本ここに生活道路があるんですけども、調整池ができると潰れてしまいますんで、幹線の道路に期待しております。

委員長 この幹線道路ができないと池の形もできないし、道路をまずしっかり決めることですね。

福田委員 東酒々井団地側は田んぼが残りますんで、この辺を駐車場とかにできればいいのかなと思います。この前上郷地区の説明会を町の人とやってもらったんですが、今月の25日にも部落の寄り合いがありますんで委員会の意見を私が地元につたえるという形になっております。私ここに住んでおりますので中心に考えてもらえれば(笑)。

委員長 ありがとうございます。では安田さんいかがですか。

安田委員 気づいた点では皆さんおっしゃるように駐車場が最初の案には入っていないので、駐車場の必要性を感じます。

委員長 駐車場はどんな駐車場をお望みですか。砂利で浸透させるとか。沖縄のように木を植えて日陰を作るとか。

安田委員 専門的なことはわかりませんが、木を植えたりするスペースは必要と思います。従って、ここにいただいておりますグリーゾーンのエリアだけでは済まないと思います。

委員長 ありがとうございます。小関さんをお願いします。

小関委員 ユーカリが丘のモノレールのところを参考に感じたのは、照明類が太陽光発電になっております。これはいいなと思いました。

委員長 よく見られてますね。

小関委員 そんなことで、それをヒントに駐車場やトイレが必要だということで、街灯も必要と。先程の区長さんとは逆で明るくしたほうがいいと私は思っています。コスト面から言えば太陽光発電を利用すればよいと思います。公園の要素が強いほうがいいと思います。以上です。

委員長 ありがとうございます。

藤田委員 皆さん橋はいらないと言っておりましたが、橋を作って花を植えて、お年寄りが散歩できればいいなと思います。回りは遊歩道にして桜の木を植えたり、例えばボートを浮かべたりできればいいのではないかと思います。子供たちが魚やザリガニを取ったりできるようになればいいと思います。自然のものを体で憶えたりすることが今の子供たちに大切ではないかと思います。

委員長 学校教育の場としても利用できたら楽しいですね。

小宮山委員 私は皆さんの考えとは大分違まして、遊水池だけの目的ということで皆さんのお考えを聞いていたのですが、町として、また町おこしの意味を含めて遊水池だけではどうなんだろうな

という気がしてます。買収とか色々な問題があろうかと思いますが、一気にこういったことはできないと思うんですね。段階的にやるべきと思っておりますが、計画道路は生かさないといけないと。そういうことで、ここに3つの谷津が奥にあるんですけれども、総合的な遊水公園というような形にして、もちろんこの中に駐車場も必要でしょうし、散策道も必要でしょう。田に植栽をして緑を設け、湧水がありますからホテルだとかトンボの生息地にもなっておりますことから、ここに入れる前に少し小さな池を設けて生物の生育場を設けてやったらどうか。お金の問題があるのでどうなるのかはわかりませんが、やるなら段階的に年を重ねても遊水池だけをどう利用するかだけでなく、周辺も含めた形で進めたらどうかと思います。

委員長 ありがとうございます。ちょっと小宮山さん伺いたいんですが、田んぼを利用した場合に、湧水を利用した生産にはどういうものが考えられますか。湧き水は冬も夏も大体水温が一定ですね。私の持論は湧き水は利用しなければ保全できないという考えがありますので、前にもちょっと小宮山さんにお話しましたが、どんなものを作って、どんなものを生産したらいいでしょうかね。

小宮山委員 湧水の周辺は圧倒的にクレソンが多いです。

委員長 クレソンは増えますけれども、花かなんかでないですか。実は前にも計画があったんですけども、カラーをやろうとしたことがありました。カラーというのは水芭蕉の仲間で、すごく生産性が高いんです。水温が一定とかすごく大事なんです。カラーは、いろんな種類がありますからカラーは面白いと思います。では、次の方をお願いします。

鈴木委員 調整池に決まってから書こうと思って、今日は書いておりません。ただ、ひとこと言わせてもらえれば今日イメージを聞かせていただいたのですが、管理棟とかありましたが、以前いただいた資料の中に将来対応調整池というのがありますが、住宅地の計画はあるんですか。しつこい様ですが。

事務局 以前土地区画整理事業の計画がありましたが、一度閉じたような形になりまして、また最近になって動きがあるようです。具体的にどのような形でというのはまだ聞いておりません。

鈴木委員 小さい町の財政ですから、将来開発する人に最初町が立て替えてでも、応分の負担を求められる体制ができていますかということです。なぜかといいますと、ふじき野がいい例なんです。この25町歩の広さに今のふじき野の調整池が適切かということなんです。町はいつも開発業者の尻拭いばかりしている。業者は小さい調整池ですんでいる。同じことを2度やってはならないという観点から私は今聞いてみたんですけども。

委員長 情報収集が大事です。住民がどういう方向を向いているのか。それからどのような形の計画があのかあるのか事前に集めておかないと計画がなかなか成り立たない。

鈴木委員 それともうひとつですが、町が最初に計画した調整池の面積が3.2ヘクタールなんですか。

事務局 大体そうです。

鈴木委員 イメージをプラスしていくと4反歩が増えるということですか。

事務局 今そういう提案もあるということです。

鈴木委員 管理費はどれくらいかかるんですか。年間の。

事務局 治水対策の絵だけではせっかくこの場所に作るのですから、委員さんからたくさんご提案いただいたものを将来的にはどこまで皆さんに意を汲むことができるかわかりませんが、イメージとしては池を使った総合的な親水公園みたいなものがないかというご提案をもらって

るところなんです。それから今、維持管理費というお話が出ましたけれども治水だけを考えれば、この池については洪水の調整した水は、自然流下でございますので治水だけを考えれば管理費はかかりません。

鈴木委員 回りの土手の草刈とかは。

事務局 それはその草を刈るのがいいのか、自然を残すために残せばいいのか、その辺はわかりませんが、洪水を調整するための管理費は要りませんということです。

鈴木委員 水辺の事故とか多いですね。その辺のところは。

委員長 それは当然のことですね。計画する上で。治水が中心ですから、治水に対してどれだけのものをプラスできるか。治水は早くやらなくてはならない。プラスアルファはじっくりとどう付け加えていくのか。重要なところに来ておりますので、その辺のことで今日委員会を開いたのですから、その辺のところを汲んでいただきたい。今いただいた絵をできるだけ共通部分を含めた絵にさせていただきたい。そんなお願いをコンサルさんにしたいと思っているんですが、どうですか。

事務局 実際この絵につきましては業務終わりますけれども、今後話し合いをしてなんとかご協力をいただければと、そういう方向で進めて行きたいと思っております。

委員長 絵にさせていただいて、できるだけ早い段階で皆さんに配ってそれをまたたたき台にさせていただきたいと思います。

鈴木委員 先程冒頭で言いましたが、ガード下の問題についてスケジュール日程まだ確認していないんですけれども、それを確認したい。

委員長 これの作業と同時に京成との話し合いができるのかできないのかまずそれを確かめなければいけません。それから、相手あつてのことですから、町自体でもできませんし、それから国あつてのこと、あつてのこと、そういうところの中でどういう範疇でどれだけ答えられるかということは事務局にお任せしたいと思っておりますのでちょっと待っていただけますか。よろしいですかそれで。

事務局 はい。

委員長 長いこと色々お話いただきましたけれども、ご意見他になればこれで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。(終了)